

2017年 年頭のご挨拶

IPPS-J会長 石井 克明



国際植物増殖者会議日本支部会員の皆様新年おめでとうございます。今年も皆様にとりまして幸多い年でありますよう御祈願いたしております。さて、私にとりましては晴天の霹靂でございましたが、本年より本支部の会長を仰せつかりまして、身の引き締まる思いであります。1999年に第6回茨城大会がつくば市のカピオという会議場で開催された折、筑波研究学園都市にあります森林総合研究所の研究員で樹木の組織培養を行っておりました関係で、当時の農業資源研究所の方よりお誘いがあり会員に入れていただきました。その茨城大会では、当時携わっていた人工種子による樹木のキリ等の増殖について報告いたしましたのを懐かしく思い出します。当時は結構一般講演も多かったように記憶しています。その後の大会へはできるだけ参加するようにしており、2008年の第15回茨城大会や、2012年の国際理事会のツアー等ではその準備や実行に参加協力させていただきました。今後も微力ながら、本支部の発展に寄与できれば光栄に存じます。ところで、昨今の日本の人口減や高齢化の影響が本支部にも影響しているのでしょうか、あるいはこれは世界中の国際植物増殖者会議支部共通の問題のようにも見受けられますが、会員数の維持を図っていく必要があると思われまます。また、支部の財政基盤の充実のために、外部の基金への助成の申請等も今後は検討することが必要と思われまます。そこで、様々な機会にIPPS日本支部の紹介と会員入会へのお勧めをして頂くことを

会員の皆さんにお願いしたいと存じます。幸い藤森理事が日本支部紹介用の小型のパンフレットを最近作成して下さい、IPPS日本支部のHPからダウンロードできますので、是非ご活用ください。両面印刷をして3つ折りにすると手ごろなサイズになります。また、本年は11月18日—19日に沖縄県での初めての支部大会の開催が計画されておりますので、万障繰り合わせの上ご参加をお願いいたします。

さて、2017年は米国のトランプ大統領が1月に就任し経済の活性化等新たな動きが生まれそうですが、実際はどうなるのかなかなか先が見えませんが、気候変動や地殻活動の活発化も予想されており、何が起きてもおかしくないといえるでしょう。一方、地球温暖化の適応策において植物育種の重要性が言われており、防災における植物の活用も近年大いに注目を集めて居ります。温暖化の緩和策としての都市緑化は既に広く進められております。あるいはストレス社会や高齢化社会において園芸療法といった新たな考え方も登場しております。植物の増殖技術は、植物の機能を活用するうえでの基盤であり、今後もIPPSのような組織の果たす役割は大きいと思われまます。分野を越えた情報交換や交流の場として充実した日本支部として発展するよう皆様のご協力とご指導をどうかよろしくお願い申し上げます。

目次

2017年 年頭のご挨拶 (石井 克明)	1
IPPS-J 第23回高知大会開催 (島崎 一彦)	3
高知大会に参加して (速水 正弘)	4
第24回 沖縄大会のご案内 (前田 隆昭)	5
赤塚植物園の希少植物温室 (藤森 忠雄)	8

I P P S - J 第 2 3 回 高 知 大 会 開 催

高知大学農林海洋科学部 島崎 一彦



去る9月24日(土)~25日(日)高知市において、第23回高知大会が高知大学朝倉キャンパスにて開催されました。朝倉キャンパスは高知市西部に位置し、はりまや橋までは路面電車で25分程度、正門から会場まではヤシの木がそびえ立っており、明るい雰囲気以南国情緒があふれています。

大橋会長の挨拶に続き、特別講演では高知県立牧野植物園研究員の藤川和美氏と有限会社見元園芸の見元一夫氏においでいただき、藤川氏にはミャンマーにおける植物保全活動、見元氏にはピオラなどの新品種開発と生産についてお話いただきました。また、引き続き、8人の演者による研究発表が行われました。二日目の見学では午前中に高知市内の街路市(日曜日)を散策後、県立牧野植物園に移動し、前日ご講演いただいた藤川氏に園内をご案内いただきました。当園では牧野富太郎博士の蔵書や植物標本も見ることができました。その後、高知市三里地区に移動し、高知が日本一の生産地でグロリオサの集出荷場及び圃場を、この地区のリーダーである中島義幸氏にご案内いただきました。昼食後、高知市春野地区の有限会社見元園芸に移動し、前日ご講演いただいた見元社長にピオラやクローバー、その他宿根草の圃場をご案内いただきました。その後、高知駅に移動し、一部の方は解散、時間の許される方は、さらに安芸市の岡宗農園に移動し、当大会実行委員のメンバーでもある岡宗信明社長に、荔枝やマンゴーなどの熱帯果樹や草花・庭園樹の圃場をご案内いただき二日目の日程を終えました。本大会は交通の便が良いとは言えない高知での初めての大会開催であり、準備などで十分でないところも多々あったと思いますが、皆様方のサポートのもと予定を終えることができました。この紙面をお借りして改めて御礼申し上げます。



ピーター氏による懇親会のオークション



藤川氏による牧野植物園の植栽ガイド



中島義幸氏によるグロリオサの圃場見学



岡宗農園のマンゴー温室

高知大会に参加して

静岡県立農林大学校 速水 正弘



私は、高知県にはこれまで何度も来たことがありましたが、今回の大会は、旧知の高野さんや以前にお世話になった岡宗さんが実行委員をされていることから、何が何でも参加しようと決めていました。そして、今回の大会が、私の期待していたおりの素晴らしいものであったことを、紙面をお借りして今回参加できなかった皆様にお伝えしたいと思います。

朝、前泊していたホテルから、何人かの会員の方と会場の高知大学朝倉キャンパスへ。最初案内していただいた教室が六角テーブルのサロンのようなところだったので、「斬新で面白いけど、ずいぶん変わったところで開催するんだな。」思っていましたら、そこは談話等行うための控室で、会場は隣の部屋とのことで、行ってみるといつもの教室的な会場でした。

しかし、控室にはコーヒーやお菓子が用意しており、休憩の時に他の会員の方と話ができて、非常に良かったと思いました。

さて、大会の内容ですが、午前中は開会式の後、お二人の方から特別講演をしていただきました。

最初は、高知県立牧野植物園研究員の藤川和美さんで、『ミャンマーにおける植物多様性と保全』というタイトルで、簡単な牧野植物園の紹介の後、研究協定を結んでいるミャンマー連邦共和国天然資源・環境保全省と共同で実施しているミャンマーの植物資源、特にラン科植物の保護活動、その増殖の取組み、持続的活用について、スライドを使用してお話をいただきました。スライドの中には、日本では見られないような貴重なランがたくさんあり、現地の人がそれを高価なものと考えず、ただ薬をとるために乱獲して絶滅の危機に瀕している現状の報告があり、ため息がでてしまいました。

増殖については、私の専門でもあることから、異常に興味深いものでしたが、国情が違い、大変苦労されていること等、いろいろと勉強させていただきました。

続いて、有限会社見元園芸の見元和夫社長より、『見元園芸の新品種開発と生産』というタイトルで、社長の簡単な経歴、見元園芸が取り組んできたビオラの育種とその品種紹介、四つ葉のクローバーへの取組みと

その蜂蜜の生産等の話をさせていただきました。

見元社長については、花き業界ではちょっと名前が通った方で、もう少し年配の方かな?と思っていたので、講師席にいらっしゃるとき「息子さんかな?」と思っていました。しかし社長本人とのことでビックリしました。

ビオラについては、近年普及してきた上花卉がウサギの耳のような形をした『ラビットタイプ』のものや、動物の顔に似た『メルヘンタイプ』と呼ばれるものが紹介されました。また、四つ葉のクローバーについては、かなり形質の固定ができてきたことの説明がありましたが、多葉のルーツが浜松市であること等大変興味のあるお話を伺うことができました。

私たちの農林大学校にも四つ葉のクローバーが塊って生えているところがあり、学生に見元園芸の話をしたところ、大変興味を示していました。

豪華な昼食の後、午後は研究発表が行われました。

今回は、8つの課題の研究発表が行われ、いずれも個性のある興味深いものでした。

ただ、残念だったのは、2名の海外からの留学生の方の発表が英語で行われ、概要も英文で書かれていたため、英語の苦手な私にとっては理解しにくいところが多々ありました。確かに国際学会であり英語を標準としているので仕方ないのですが、日本の大会ですので、せめて概要は和文で作成するか、和文ページ並記にいただいた方がよかったかなと思われました。



高知県立農業大学校の学生の発表は、発表のテクニックとしてはまだまだでしたが、将来の夢を含め堂々と発表されており、今、日本の多くの学会が陥っている重箱の隅をつつくようなものとは異なり、大変新鮮でよかったと思われました。

今後の開催については、是非このような各県にある農業大学校にも声をかけていただきたいと思います。

夜は高知市内の有名料亭で会員相互の懇親を深めた後、市内に繰り出し、高知の夜を満喫しました。

次の日は視察研修で、最初に前日に講演をいただいた藤川さんの勤める高知県立牧野植物園を見学しました。

園内の植物、植物標本の作り方、現在保存している植物標本の収蔵庫等を見学しましたが、中でも圧巻は、通常は学術調査等、許可がなければ入れない牧野富太郎博士の収集した本を収蔵した収蔵庫に入り、それらを手にとってみる事ができたことでした。もちろん写真撮影はだめで、その様子はお目にはかけられませんが、牧野博士は植物だけではなく、実に様々なジャンルの本を読んでいることがうかがえました。

続いて高知市三里地区のグロリオサの出荷場及び生産農場を視察しました。このグロリオサは、砂地をうまく利用し、品質が良く、市場評価も高いとのことでしたが、団地の近傍には空地や廃ハウスがあり、儲かっても後継者が減っていく私の県と似た現状を垣間見たような気がしました。

近くの鰹料理の店（結構有名な店らしい）で昼食をとり、午後からはやはり前日に講演をいただいた見元園芸の見学を行いました。秋花壇用苗は残骸が残っているだけで、春花壇苗

のピオラについてはまだ花が咲いているものが少ない状態でしたが、種類ごとに色の違うトレーを使用したり、スペーシングが容易な二段トレー等、参考になることがたくさんありま



した。また、私が見たかった四葉のクローバーについては、思った以上に固定割合が高く、大変興味深いものでした。

その後、視察は実行委員でもある岡宗氏の岡宗農園（メリーガーデン）へと続くのですが、時間の都合で私は高知駅で失礼し、岡宗農園には行けませんでした。

以前、静岡県の調査事業で岡宗農園（メリーガーデン）を訪問し、その後岡宗さんのご自宅で近隣の人たちと親しく飲食や箸ケンをさせていただいたことから、是非訪問したかったのですが。

以上簡単ですが、私の参加報告とさせていただきます。実行委員の皆さんの取組みとお心遣い、本当にありがとうございました。

第24回 沖縄大会のご案内

南九州大学 環境園芸学部 前田 隆昭



新年明けましておめでとうございます。本年はIPPSS日本支部として初めて沖縄で大会を開催することとなりました。沖縄は大学と仕事で10年間生活した地であり、そのこともあって、現在宮崎県で仕事をしている私が、沖縄大会の担当を仰せつかったのではないかと考えています。微力ではございますが、大会を成功させるために頑張っておりますので、ぜひとも多くの皆様方にご参加頂けますようよろしくお願い申し上げます。本大会開催にあたっては、宮崎大学農学部 鉄村先生にもご協力を賜りながら進めさせて頂いています。

さて、大会は本年11月18日(土)～19日(日)にかけて沖縄本島中南部で開催する予定になっています。現在のところ開催場所は確定しておりませんが、追って、ご案内させて頂きます。今回は、例年に比べ開催時期が遅いかと思います。これは台風常襲地帯の沖縄開催のため、10月末までは、いつ台風が発生するのかわからず、大会に支障をきたさない11月開催とさせて頂きました。この点をご理解頂きたいと思います。

大会1日目は、例年通り研究発表会や総会などを行います。その後、懇親会を計画しています。2日目は近隣の生産現場を見学するとともに、泡盛工場の見学も予定しています。生産現場は、日本で唯一の亜熱帯地方である沖縄の熱帯花木や果樹類、造園関連を予定しています。泡盛工場では、もちろん泡盛の試飲もできます。以上のように多くの見学場所を考えていますので、2日目だけでは見学できないことも考えられます。その場合は、1日目にも少し見学を入れさせて頂くかもしれません。せっかく、沖縄で開催するのですから、参加下さった皆様方に少しでも沖縄の様子を知って頂きたいと思い、見学中心の大会を考えています。

また、会員のご家族の方々が多数ご参加される場合は、研究発表会・総会の時間帯に本島中南部でのツアーも行う予定です。この件も含め、大会に関するご要望等ございましたら、tmaeda@nankyuda.i.ac.jpまでご連絡頂ければ幸いです。ぜひとも、皆様の多数のご参加を重ねてお願い申し上げます。



赤塚植物園の希少植物温室

(株)赤塚植物園 藤森 忠雄



日本人には温帯地方の植物は身近に接することが出来ますが、熱帯地方や南半球の植物を見る機会は限られています。そこで当社を訪問されるお客様や周辺の皆様にご覧いただくために、この温室を作り、比較的珍しい植物を植栽いたしました。見たことのない花や植物の役割を発見し、楽しんでいただくことを目的にしています。この紙面を借りて、いくつかの植物を紹介いたします。

以前、この温室のシンボル・ツリーのトックリキワタやオオベニゴウカンを紹介しました。今回はそれ以外の植物です。

1) ヒスイカズラ

学名：Strongylodon macrobotrys
マメ科 常緑つる性木本



フィリピンのルソン島に自生するツル性植物で花は鮮やかなヒスイ色、花弁は長く反り返り、先端は細くなります。フジの花のようにながく垂れ下がる花序は、時には1m以上の長さになります。4月下旬から5月に咲きます。

2) バオバブ

学名：Adansonia gregorii
キワタ科

バオバブといえばほとんどはマダガスカルが原産ですが、これは2,000年の淡路園芸博



覧会の際にオーストラリアから出展されたものです。8月になると白花がほうき状に開花します。もう1本のバオバブはザー・バオバブです。(花は弁の外側が黄色で内側が赤色です。)

3) ミラクルフルーツ

学名：Synsepalum dulcificum
アカテツ科 常緑低木

原産は南米ギニア。花は米粒ほどの小さな白花で、甘い香りがします。受粉すると赤色の2cm程の楕円形の果実が付きます。この実を食べた



後に、レモンなどのすっぱいもの食べると甘く感じる効用がある不思議な果実です。観葉植物の鉢ものとして鑑賞されています。

4) ジャボチカバ

学名：Myrciaria cauliflora
フトモモ科 常緑小高木 (別名：木葡萄)

ブラジル原産で、春から秋にかけて開花して、黒紫色のブドウのような実を沢山付けます。花は約1cmの白花で幹や太い枝に直接咲きます。幹生



花です。白花と黒紫色の実が幹に直接ついている様子が珍しく、花には芳香があり観賞価値もあります。ブドウの『巨峰』に似た味です。

仏教3大聖樹という言葉があります。その3種類があります。(5、6、7)

5) インドボダイジュ

学名: *Ficus religiosa*
クワ科

この木の下でお釈迦様が悟りを開いたといわれています。



6) ムユウジュ

学名: *Saraca indica*
マメ科

この木の下でお釈迦様は誕生したといわれています。写真のような橙色の花が咲きます。



7) ホウガンボク

学名: *Couroupita guianensis*
サガリバナ科 常緑高木

原産は南米ギニア。お釈迦様がこの木の下で亡くなられたといわれています。その際にこの花が一斉に咲いたとのこと。タイでは仏教の聖木として、お寺などに植えられたこの木はカラフルな布で巻かれ敬われています。



8) サガリバナ

学名: *Barringtonia racemose*
サガリバナ科 常緑小高木

原産は台湾や熱帯アジア。通常は湿地林に自生して、葉の腋から垂れ下がる花序は長さが20~50cmになります。白色または淡紅白色の美しい花を沢山付け、夕方から開花し始め翌朝には散り始めます。



9) ベトナムツバキ

学名: *Camellia amplexicaulis*
ツバキ科 常緑高木

原産はベトナム。ベトナムのグエン王朝(1802-1945)13代続いた王家で愛された、門外不出の『幻の名花』。戦後学術調査により、発見された貴重品種です。一般的なツバキのイメージとは異なり、花卉は蠟細工のような質感があり、肉厚はエキゾチックな雰囲気を醸し出しています。



10) イランイラン

学名: *Cananga odorata*
パンレイシ科 常緑高木

東南アジア原産で緑色の花を沢山着ける。花は開花すると芳香がある。この花から香水の原料を精油する。香水の原料です。



他に沢山の植物が植えられていますが、パンフレットなどをご希望の方は連絡いただければ、送らせていただきます。

新入会者の紹介

本間 義之

静岡県農林技術研究所
2016年1月5日入会

IPPS-JニュースレターNo. 57号に「頭球を利用したタマネギ育種の試み」と題してご投稿いただきました。静岡県農林技術研究所の生物工学科でご活躍です。

松嶋 賢一

東京農業大学 農学部バイオセラピー学科 准教授
2016年7月29日入会

東京農業大学農学部バイオセラピー学科に所属しております。研究テーマとして、都市の生活空間における植物の活用方法について研究しております。園芸植物にとらわれずイネのような栽培植物から雑草のような野生植物まで、都市に住む人々の生活の質の向上に活用できると考えられるあらゆる植物に焦点を当てています。今後ともよろしくお願いたします。

IPPS-J 第十一期理事・監事・役員・理事代理名簿 (2017.1.1~2018.12.31)

	役職	氏名	担当	会社・所属
1	会長	石井 克明		愛国際環境研究協会
2	副会長	大西 隆		(有)セントラルローズ
3	事務・会計理事	南出 幹生		南出(株)
4	編集理事	富田 正徳	インターネット	バイエルクロップサイエンス(株)
5	国際理事	大橋 広明		愛媛大学
6	理事	藤森 忠雄	ニュースレター	(株)赤塚植物園
7	理事	文室 政彦	和歌山大会	近畿大学
8	理事	速水 正弘		静岡県立農林大学校
9	理事	島崎 一彦	高知大会	高知大学
10	監事	鉄村 琢哉	BlackBook	宮崎大学
11	本部・国際理事	Peter F. Waugh		C a r a n n
12	国際交流推進委員	大森 直樹	IPPS活性化	(株)山陽農園
13	年史編纂委員	遠藤 弘志		
14	理事代理	青山 兼人		兼弥産業(株)
15	理事代理	前田 隆昭	沖縄大会	南九州大学
16	理事代理	水谷 朱美		(株)ベルディ
17	理事代理	乗越 亮		東京農業大学
18	理事代理	大内 盛勢		有限会社スコレー
19	理事代理	佐藤 伸吾		三菱樹脂アグリドーム(株)
20	理事代理	鈴木 隆博		
21	理事代理	登坂 初夫		(株)登坂園芸
22	理事代理	内田 恵介		グリーンクラフト

IPPS-Jの大会予定

※大会を開催したい方は早めに事務局へ申し出てください。

2017年11月18日(土)~19日(日) — 第24回 沖縄大会 (担当: 南九州大学 前田隆昭先生)、沖縄県

2018年11月24日(土)~25日(日) — 第25回 和歌山大会 (担当: 近畿大学 文室政彦先生)、和歌山県白浜町

2019年 — 第26回 ○○大会

2020年 — 第27回 IPPSの国際大会が日本で開催となります。

編集後記

師走を迎えてから、ニュースレターの原稿依頼を忘れていたことに気が付きました。あわてて皆さんにご無理なお願いをしました。ご協力いただいた投稿者の皆さんには心から感謝いたします。私の編集はこの59号と60号で最後になります。61号からは速水正弘さんをお願いすることになりました。

思い起こせば25号(2005年7月)の編集から、携わらせていただきました。文章を書くのが苦手で、

パソコンの操作が下手な私が、なんで引き受けたのか、その理由を今は思い出せません。

そんな編集でしたから、皆さんにはさぞかしご不満であったらと推察しています。ただし、私はIPPS-Jのニュースレター編集を通じて、多くのことを学ばせていただきました。そのことに関して皆様に感謝いたします。

ニュースレター担当: 藤森忠雄